

愛知教育大学の主免実習における到達目標の構築に向けて — 学生の学びの実態から考える —

平野 俊英

理科教育講座

Development of AUE's Attainment Targets in Teaching Practicum for the Main Teaching Certificate — Thinking from Student Teachers' Point of View —

Toshihide HIRANO

Department of Science Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

要 約

本学の中期計画では、附属7校園・公立200校園で実施する教育実習において、学生の学修状況に応じた到達目標の構築と成果のきめ細かな把握を行うことで大学と実習校の連携強化を図り、双方の指導を充実させて実習生の学習支援の質的向上を図ることを掲げ遂行している。実習生七百人に対して、連絡指導担当大学教員・実習校指導教員が各々数百人規模で介在して運営されるが故に、教育活動の規準や統一的な評価基準の構築は本質的な課題である。課題解決に向けた第一段階として、第3学年後期実施の主免実習に関して事後に学生アンケート調査を昨年度行い、分析等で明確になった学生の活動や理解内容の実態とその課題を踏まえつつ、主免実習の時点であるべき到達目標の規準性を検討することにした。その際、本学の教員養成課程カリキュラムで育成を掲げる3つの構力や、教職実践演習向けe-ポートフォリオで設定した4つの観点を加味して整理を行った。

Keywords: 教育実習、到達目標、評価基準

1 はじめに

本学の教育実地研究は4年間に渡って展開される。4つの教員養成課程では、1年次9月の基礎実習（主免校種附属学校園での観察実習と附属特別支援学校での教育活動参加）に始まり、3年次後期（主免実習・基礎免実習・養護実習）と4年次前期（隣接校種実習・特別支援教育実習・副免実習）には、附属学校園や愛知県内の公立学校園をフィールドにして教育実習が実施される。そして、2009年度入学生までは4年次後期の11～12月において附属学校園での応用実習の機会が六年一貫コース学生や履修希望者に提供される。一方、現代学芸課程では、教員免許状取得希望者に対して3年次9月に1週間の導入実習（附属学校における観察実習と大学での指導案作成等の演習）を実施した上で、4年次前期に主に2～3週間の教育実習が附属中学校・高等学校3校を主要なフィールドにして実施される。

本学では前期や後期の教育実習あたりに履修する教育実習生が七百人規模になる。このため、小・中学校を各2校、幼稚園・高等学校・特別支援学校を各1校、計7校園を附属として持つ本学でも、全ての教育実習生のフィールドを附属学校園に限定して設定することは、実習実施受け入れ期間の延長等の対策を取るにしても現実的な方法とはなり得ない。そのため、愛知県や名古屋市の教育委員会との協議により県内他大学の教育実習と同様に、約二百校と多数にのぼる公立小・中学校や特別支援学校に、本学主催の説明会を提供した上でご協力いただき、各学校あたり1～数名ずつ教育実習生が配置され、実施されるという状況にある。

また、教育実習生の人数規模が大きいことは事前・事後指導や実習期間中の指導運営に本学特有の課題を与えている。事前・事後指導の実施単位は学生の所属する課程や専攻・コース毎（教科によって科目毎の場合もある）で、最小でも30人程度となっており、それ

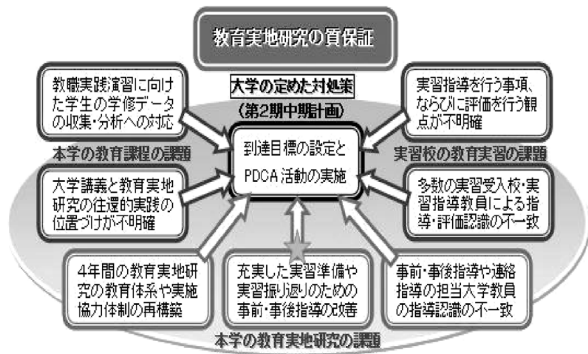


図1 教育実地研究の質保証に向けた大学の現状と課題

に対して学生の所属に対応する大学教員が1人ずつ担当として配置される形になっている。さらには、各実習協力校との連絡指導に当たる大学教員や、実習協力校における実習担当教員が各々数百人規模で介在している。これらは、教育実習を行う際に指導や評価の認識の不一致を引き起こしている可能性を否定することができないため、一定の質を持った学修体験を教育実習生に提供することを妨げていると考えられる。

それ故、図1に示すような大学の教育実地研究の運営形態が抱える本質的な課題に向き合い、改善していくためにも、教育活動の規準や統一的な評価基準を構築することが必要であると判断できる。

既に基礎実習においては、学務WEBに大学教員向けに掲載される『基礎実習評価マニュアル』にあるように、観察実習を通じて育成を期待する「求める学生の姿」が5観点で明示されており、学生本人による自己評価レポートを考慮しつつ、共通な評価尺度を基にして引率指導担当の大学教員が学生の実習活動を観点別に評価し、一定の算出法により成績判定を判定する方法を導入している。しかし、授業実習が伴う主免実習等は成績判定を大学教員が直接行わず、実習協力校の教員が行うわけであるから、なおさら丁寧な検討や調整が必要である。学生の学修状況に応じた到達目標の構築と成果のきめ細かな把握を行うことで、大学と実習協力校の連携強化を図り、双方の指導を充実させて実習生の学習支援の質的向上を図ることを第2期中期計画に掲げて、教務企画委員会や教育実地研究専門委員会、教育創造開発機構大学教育・教員養成開発センター教育実習部門がその履行に当たっている。本稿は教育実習部門による分析に基づき、主免実習における到達目標の構築について検討するものである。

2 成績判定・事後アンケートにみる学生の学びの実態

平成22年度後期に行われた主免実習・基礎免実習・養護実習（3年生対象）を対象に、学生の学びの実態について分析を行った。まずは、実習協力校が大学に提

出した教育実習の成績に基づいて、学生による教育実習での学びの達成の傾向を探った。本学では評価領域として「学習指導」「生徒指導」「実習態度」の3つを以前から定めている。実習協力校に依頼する成績評価については、これら3領域毎の評定を「総合評定」とあわせて提出していただくようにしている。よって、3領域毎のA～C判定の組み合わせと、総合評定のA～C判定との関係性を検証した。その結果を、図2と表1に示す。

3つの領域毎のA～C判定の組み合わせとして、2つ以上の領域でA、またはCの組み合わせとなる学生は、総合評定でそれぞれA、またはCと判定されていた。これらの判定には「実習態度」の深い関与があり、この領域の評定がそれぞれ必ずA、またはCと判定されていることがうかがえる。また、実習生の達成割合が高い評価領域は「実習態度」、「学習指導」、「生徒指導」の順であった。このほか、A～Cの判定比率は地域間や校種間で偏りが見られることも得られた。

実習協力校からは事後アンケートでの自由記述欄において、実習生の取り組みへの肯定的な感想が数多くあがった。また、件数は少ないが、学生の緊張感から来る行動様式のためか「子どもへの元気な関わりや、意欲的・積極的な取り組みがあると良い」といった意見、教材研究への時間的制約または個人的な取り組み不良や教科指導の内容に関する基礎的な知識の不足のためか「理解が不十分なために指導事項の考えや準備に広がり少ない」といった意見、さらには、教育実

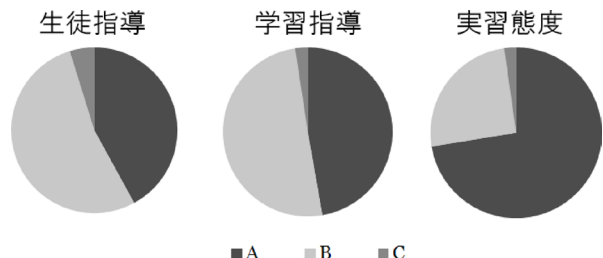


図2 平成22年度後期教育実習における評価領域評定（幼稚園除く）

表1 平成22年度後期教育実習における評価領域合計点と総合評定の状況（校種別ならびに附属/公立別）

	実習生数	評価領域合計点			総合評定			
		9-8点	7-5点	4-3点	A	B	C	平均
公立小	327	188	133	6	185	136	6	2.55
附属小	152	102	49	1	102	49	1	2.66
小学校合計	479	290	182	7	287	185	7	2.58
公立中	92	35	51	6	33	53	6	2.29
附属中	92	57	34	1	51	40	1	2.54
中学校合計	184	92	85	7	84	93	7	2.42
附属高校	8	6	2	0	6	2	0	2.75
合計	671	388	269	14	377	280	14	2.54

※評価領域の評定についてA=3点、B=2点、C=1点として数値化し、3領域分を単純合計したものが評価領域合計点である。

習への意欲や教職員との協調の意識において認識不足があるためか「自覚を持って取り組み、意思表示や連絡をもっとしてほしい」等の意見も見受けられた。

また、教育実地研究専門委員会ではこれとは別に、教育実習生を対象にして事後アンケート調査を企画し、実施している。平成22年度は例年実施している書式が変更され、教育実習期間中に行った「観察・参加・実習」という3種の実習活動に関わって、全体で21問にわたって彼らの学びの実態（達成度）を5件法で尋ねる設問が用意された（資料1参照）。あわせて、例年通りの設問として、教育実習生自身が振り返って考える、教育実習の成果や感想・要望等5項目に対する意見が自由記述で尋ねられた。この調査結果も学生の現状把握に利用することにした。

表2は、学生が選択した尺度の回答を質問紙に掲載した尺度番号通りに数値化して、校種別、附属／公立別、ならびに全体で平均値を求めたものである。資料1中の設問1-21が表2中のQ1-Q21に対応している。これらの表から、観察・参加・実習の活動実態に関する達成度の調査からは、「学習指導」に係わる事項を中心に、殆どの問いで過半の者は概ね達成以上のレベルであったと回答していることがわかった。しかしながら、それぞれの問いでは少なくとも全体の約7分の1に当たる100名程度が、まだまだ達成途上のレベルだったと回答しているという実態もある。特に、教師との連携や、指導ポイントの把握、子ども理解に関する項目においては達成途上者の比率がさらに高まること

資料1 事後アンケート質問紙（5件法による回答部）

●観察実習について：下記の5つの段階から、該当する数字を【 】に記入して下さい。
（5：十分理解できた 4：大体理解できた 3：どちらとも言えない 2：あまり理解できなかった 1：全く理解できなかった）

1. 授業時の教師の動きや働きかけの特徴を理解できましたか ……【 】

2. 児童の言動の特徴や個々の性格を理解できましたか ……【 】

3. 児童相互の関係を理解できましたか ……【 】

4. 授業展開の要点や特色を理解できましたか ……【 】

5. 教材の重要性や特色を理解できましたか ……【 】

6. 教師の提示物や黒板の使い方などを観察して、そのねらいや良い点を理解できましたか ……【 】

7. 学級指導のポイントや特色を理解できましたか ……【 】

8. 生活指導・学習指導のポイントや特色を理解できましたか ……【 】

●参加実習について：下記の5つの段階から、該当する数字を【 】に記入して下さい。
（5：十分達成できた 4：大体達成できた 3：どちらとも言えない 2：あまり達成できなかった 1：全く達成できなかった）

9. 積極的に児童や生徒に接し、理解することに努めましたか ……【 】

10. 遊びや学習活動、自治活動、文化活動、クラブ活動などに参加できましたか ……【 】

11. 教師の指導に補助者として協力・参加することができましたか（A.T.） ……【 】

12. 教師の指導に共同担当者として協力・参加することができましたか（T.T.） ……【 】

●授業実習について：下記の5つの段階から、該当する数字を【 】に記入して下さい。
（5：十分理解あるいは達成できた 4：大体理解あるいは達成できた 3：どちらとも言えない 2：あまり理解あるいは達成できなかった 1：全く理解あるいは達成できなかった）

13. 授業を行った単元の目標や本時の目標について理解できましたか ……【 】

14. 授業実施前に児童や生徒の既習内容について理解していましたか ……【 】

15. 教材研究・教材づくりはできましたか ……【 】

16. 授業展開の構想づくりをすることはできましたか ……【 】

17. 研究授業を行う前の授業のシュミレーションはできましたか ……【 】

18. 学習指導案に沿った授業をすることができましたか ……【 】

19. 提示物やワークシート、実験材料などの準備をしっかりとすることができましたか ……【 】

20. 研究授業後に指摘された問題点について理解できましたか ……【 】

21. 授業の反省と総括を自分なりに整理することができましたか ……【 】

表2 平成22年度後期教育実習における事後アンケートでの学生の尺度回答の数値化後における平均値
（校種別ならびに附属／公立別）

(1) 幼稚園

	公立幼 (5名)		附属幼 (13名)		幼合計 (18名)	
	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.
Q1	3.80	0.45	4.31	0.48	4.17	0.51
Q2	3.80	0.45	3.62	0.77	3.67	0.69
Q3	3.60	0.55	3.77	0.73	3.72	0.67
Q4	3.60	0.55	3.69	0.95	3.67	0.84
Q5	4.20	1.10	4.46	0.66	4.39	0.78
Q6	3.80	0.84	3.85	0.56	3.83	0.62
Q7	3.80	0.45	4.00	0.58	3.94	0.54
Q8	3.80	0.84	4.15	0.56	4.06	0.64
Q9	4.40	0.89	4.54	0.66	4.50	0.71
Q10	4.20	0.84	4.42	0.67	4.35	0.70
Q11	4.00	0.71	3.67	0.78	3.76	0.75
Q12	3.60	0.55	3.67	0.65	3.65	0.61
Q13	4.20	0.84	4.08	0.52	4.12	0.60
Q14	4.00	1.00	3.50	0.80	3.65	0.86
Q15	4.40	0.89	4.08	1.12	4.17	1.04
Q16	4.00	0.71	3.92	0.95	3.94	0.87
Q17	3.40	0.55	3.23	1.01	3.28	0.90
Q18	3.80	0.45	3.15	0.99	3.33	0.91
Q19	3.60	1.14	3.75	1.14	3.71	1.11
Q20	4.60	0.89	4.31	0.63	4.39	0.70
Q21	4.60	0.89	4.23	0.60	4.33	0.69

(2) 小学校

	公立小 (302名)		附属小 (136名)		小合計 (438名)	
	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.
Q1	4.24	0.57	4.15	0.62	4.21	0.59
Q2	4.24	0.65	4.00	0.70	4.16	0.67
Q3	3.93	0.65	3.67	0.74	3.85	0.69
Q4	3.95	0.68	4.01	0.74	3.97	0.70
Q5	4.04	0.79	4.21	0.81	4.09	0.80
Q6	4.07	0.75	4.13	0.75	4.08	0.75
Q7	3.99	0.73	3.93	0.71	3.97	0.72
Q8	3.94	0.76	3.94	0.74	3.94	0.75
Q9	4.61	0.59	4.43	0.65	4.56	0.61
Q10	4.43	0.74	4.24	0.81	4.37	0.77
Q11	4.06	0.78	3.80	0.81	3.98	0.79
Q12	3.88	0.92	3.64	0.88	3.81	0.92
Q13	4.20	0.67	4.04	0.71	4.15	0.68
Q14	3.71	0.92	3.43	1.02	3.63	0.96
Q15	4.23	0.75	3.79	0.98	4.09	0.85
Q16	4.17	0.73	3.88	0.87	4.08	0.79
Q17	4.14	0.91	3.71	1.04	4.00	0.97
Q18	3.79	0.93	3.30	1.01	3.64	0.98
Q19	4.33	0.74	3.95	0.83	4.21	0.79
Q20	4.53	0.59	4.38	0.65	4.48	0.61
Q21	4.37	0.64	4.32	0.65	4.35	0.64

(3) 中学校・高等学校

	公立中 (84)		附属中 (86)		中合計 (170名)		附属高 (6名)	
	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.
Q1	4.21	0.56	4.27	0.47	4.24	0.52	4.33	0.52
Q2	4.02	0.62	3.97	0.64	3.99	0.63	3.50	1.05
Q3	3.69	0.73	3.80	0.73	3.75	0.73	3.50	0.84
Q4	4.01	0.63	4.14	0.58	4.08	0.61	4.00	0.63
Q5	4.21	0.76	4.35	0.78	4.28	0.77	3.67	1.21
Q6	4.07	0.76	4.02	0.80	4.05	0.78	3.67	1.21
Q7	3.73	0.80	3.84	0.81	3.78	0.80	3.50	0.55
Q8	3.85	0.77	3.67	0.85	3.76	0.81	3.67	0.82
Q9	4.32	0.78	4.28	0.84	4.30	0.81	3.67	1.63
Q10	4.35	0.80	3.65	1.10	3.99	1.02	3.17	1.47
Q11	3.88	0.92	3.57	0.98	3.72	0.96	3.17	0.75
Q12	3.77	0.92	3.37	1.00	3.57	0.98	3.50	1.05
Q13	4.18	0.62	4.13	0.84	4.15	0.74	4.17	0.75
Q14	3.74	0.87	3.58	1.07	3.66	0.97	3.50	0.55
Q15	4.02	0.89	4.10	0.84	4.06	0.86	4.17	0.75
Q16	4.14	0.68	3.99	0.93	4.06	0.82	3.67	0.82
Q17	4.05	0.90	3.74	1.11	3.89	1.02	4.50	0.55
Q18	3.68	0.87	3.52	1.10	3.60	0.99	3.67	1.21
Q19	4.18	0.87	3.86	1.02	4.02	0.96	4.33	1.21
Q20	4.51	0.63	4.50	0.59	4.51	0.61	3.67	1.37
Q21	4.29	0.69	4.36	0.70	4.32	0.69	4.17	0.98

(4) 全体

	公立校園 (391名)		附属校園 (241名)		全体 (632名)	
	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.	Ave.	S.D.
Q1	4.23	0.57	4.20	0.56	4.22	0.57
Q2	4.19	0.65	3.95	0.70	4.10	0.68
Q3	3.88	0.67	3.72	0.74	3.82	0.70
Q4	3.96	0.67	4.04	0.70	3.99	0.68
Q5	4.08	0.79	4.26	0.81	4.15	0.80
Q6	4.06	0.75	4.06	0.77	4.06	0.76
Q7	3.93	0.75	3.89	0.74	3.91	0.74
Q8	3.92	0.76	3.85	0.78	3.89	0.77
Q9	4.55	0.65	4.37	0.76	4.48	0.70
Q10	4.41	0.76	4.01	0.99	4.26	0.87
Q11	4.02	0.81	3.70	0.88	3.90	0.85
Q12	3.86	0.92	3.54	0.92	3.74	0.93
Q13	4.19	0.66	4.08	0.75	4.15	0.70
Q14	3.72	0.91	3.49	1.02	3.63	0.96
Q15	4.18	0.79	3.93	0.94	4.09	0.86
Q16	4.16	0.72	3.92	0.89	4.07	0.80
Q17	4.11	0.91	3.71	1.06	3.96	0.99
Q18	3.77	0.91	3.38	1.05	3.62	0.98
Q19	4.28	0.78	3.92	0.93	4.14	0.86
Q20	4.53	0.60	4.40	0.66	4.48	0.63
Q21	4.35	0.65	4.33	0.67	4.34	0.66

※表2の中で、背景色を施した一部のセルは、平均値の大きさが3.75以下であることを示している。

から、学校や担当学級の状況に応じて指導過程をさらに作りこんでいくような指導実践マネジメントにおいて、成長課題を抱えていると考えられる実習生が少なくないことが見出された。

3 主免実習における到達目標の作案

学生の学びの実態と課題を踏まえ、主免実習の時点で掲げるべき到達目標の規準性を検討した。そして、これをもとに到達目標の試案作成へと進めたが、この

作業に当たっては本学の教育実習で掲げている3つの評価領域の設定内容をはじめ、教員養成課程で掲げる「授業構成力」「生活指導構成力」「学校運営構成力」という育成すべき3つの構成力、さらに教職実践演習向けe-ポートフォリオで授業科目の目的観点に設定した「使命感や責任感、教育的愛情等」「社会性や対人関係能力」「幼児児童生徒理解や学級経営等」「教科・保育内容等の指導力」という4観点・23項目を加味して全体統制を図り、掲げる目標の間で整理を行っていった。

規準内容を考慮して定めた4項目の到達目標の内容は、表3に示す通りである。実習協力校による成績評価において判断の比重が高かった「実習態度」について、学生が主体的に実習活動を通じて教職に関する責任ある学びを展開していく姿を目指す「実習遂行力」と、教職員等との意思疎通や連携の中で教育活動に取り組んでいく姿を目指す「実務調整能力」の2項目を目標内に用意することで重点化して学生の意識を促すこととした。一方で、「生徒指導」と「学習指導」についてはそれぞれ対応する1項目を用意することとし、これら4項目群で到達目標の全体を明文化するようにした。

また、到達目標群の各項目が意図している意味内容を具体的かつ明確に学生に伝えるために、各項目に対して3～5個（全体で18個）の下位目標群を設定して学生に提示することにした。特に、e-ポートフォリオでの4観点・23項目との連動を確保するために、各下位目標と観点・項目との対応付けを明確にしながら作業を進めた。

表3 4つの到達目標とその下位目標群による構造（試案）

実習態度	実習遂行力	到達目標1 ○教職の本質を理解して、責任ある実習活動に挑戦し遂行することができる。
		・教職への適性を判断するとともに、自己における課題について意識化ができる
		・教職に相応しい言動や身なり、責任ある職務の履行、守秘義務の徹底ができる
		・計画的な実習の準備・実践と、明瞭な記載に心がけた報告物の提出ができる
	実務調整能力	到達目標2 ○教職員や保護者等と連携することの大切さを理解し、自ら参加し協働できる。
		・教職員と保護者が対話を通じて連携・協力することの大切さを理解できる
		・教職員が会議や研修を通じて校内で連携・協力することの大切さを理解できる
		・生徒指導や学習指導等に関する学校・学年・学級の方針を共有して協力できる
		・生徒指導や学習指導等の実践・協議を、教職員と協働して進めることができる
		・学校生活や学習指導/保育指導/保健活動に関わる教育環境整備へ関与して行動できる
生徒・生活指導	到達目標3 ○人間性・社会性の育成に関与し、適時に連携をとって指導することができる。	
	・年間計画に基づき、家庭と連携して継続的な指導を行う大切さを理解できる	
	・幼児/児童/生徒の個人での生活習慣や発達の特性上の課題について推察できる	
	・幼児/児童/生徒の集団での対人関係性や責任協力上の課題について推察できる	
	・幼児/児童/生徒の実態に合わせて社会規範やルール遵守について指導ができる	
学習指導 (小～高/特支) 保育活動 (幼) 保健活動 (義護)	到達目標4 ○目標や子どもに適した指導を志向し、到達へ必要な改善に取り組むことができる。	
	・事後の反省や協議で実践上の課題を分析し、改善内容や対策が明確にできる	
	・指導目標を具体的に観察可能な子どもの行動様式で表現し、適切に評価できる	
	・適切な教材教具や展開を選定して指導案を作成し、目標に則した指導ができる	
	・幼児/児童/生徒の言動を基に指導案を練り、かつ実践時に柔軟な修正ができる	
・幼児/児童/生徒の主体的な学習の導入を検討し、実施方法を教職員と相談できる		

4 おわりに ―主免実習での学生の目標達成支援策の検討―

これらの到達目標・下位目標群を目指して、学生が教育実習での活動において自身の行動を意識したり、達成度を確認して課題意識を明確にしたりできるように、環境を整備することも必要であると考えられる。そこで、これら到達目標群の構造に基づいて、①大学での事前指導や実習準備期間、さらには②実習期間中の2つの期間で紙面・内容を分けた上で、教育実習生が留意して実践すべき事項を指摘し、かつ自己到達度を各2回程度確認させる活動を意図的に行わせるため、資料2のような「学修ガイド&自己評価票」を立案し、本年度の主免実習で試行することにした。実習活動中に観察可能な自身の行動により、その出現をチェックする内容を定め、これらの出現度について記載する方式をとることによって、本人や他者が明確に到達を判断できるように配慮した。教育実習の終了後、自己評価票を回収して記載内容を分析した上で、到達目標群について内容設定レベルの修正・最終案決定へと進め、関連委員会への資料提供を行いたいと考えている。

〈参考文献〉

- 岩田昌太郎・嘉数健悟、「教育実習における評価規準の項目に関する研究」、『広島大学大学院教育学研究科紀要』、第二部第57号、2008年、pp. 293-300.
- 岩田康之・榊原禎宏・玉井康之・別惣淳二、『教員養成カリキュラムの到達目標・確認指標の検討―中学校教員養成における〈教科〉の在り方を中心に―』、日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト報告、2007年.
- 岩田康之・金馬国晴・田中昌弥・田幡憲一・橋本光明・福島裕敏、『学部（学士課程）段階の教員養成教育の組織・カリキュラムの在り方について〔論点整理〕』、日本教育大学協会「学部教員養成教育の到達目標」検討プロジェクト、2009年.
- 小柳和喜雄、「教育実習における自己点検評価のための目標資質能力の明確化に関する研究」、『奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』、第16巻、2007年、pp. 225-230.
- 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編、『東アジアの教師はどう育つか 韓国・中国・台湾と日本の教育実習と教員研修』、東京学芸大学出版会、2008年.
- 福田幸男監修・海老原修・石田淳一編著、『小学校教員を目指す人のための教育実習ノート 横浜スタンダード準拠』、東洋館出版社、2008年.
- 松浦伸和・猫田英伸ほか8名、「英語科における教育実習の到達目標の設定（Ⅱ）」、『広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要』、第37号、2009年、pp. 59-62.
- 松浦伸和・小野章ほか8名、「英語科における教育実習の到達目標の設定（Ⅲ）」、『広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要』、第38号、2010年、pp. 69-74.

資料2 平成23年度後期の教育実習で試行された学修ガイド & 自己評価票

愛知教育大学 平成23年度後期教育実習 学修ガイド & 自己評価票

学籍番号:

所属課程/選修・専攻:

/

氏 名:

本紙は事前指導から実習終了まで大学・実習校での教育実習生の学修活動を支援する目的で配布します。次の特徴を持っています。

- <1> 教育実習では期間中に「どのような事柄を」「どのような順序で」意識したり、考え行動したり、実現できたりすることが期待されているのか、網羅的に示してあります。大学講義と結びつけて実践的に学修してもらいたい内容を広範に掲載した「学修ガイド」と捉え、実習活動の目標・計画を設定する際に参考とすることで役立ちます。ただし、実習校の受け入れ体制により、全項目を実習指導に展開できない場合もあることは理解してください。
- <2> 教育実習の期間中に自分でどのようなことが「いつ頃までに」「どの順で」「どの程度まで」できたのか、継続的に記録できるようにしてあります。実習活動の成果は個人によって領域や程度に差異が見られるものです。したがって、「自己評価票」として継続的に記録を取って現状確認しつつ、次に改善が必要な事柄を意識して計画を練り努力することが大事になります。

事前指導時から実習期間の終了まで本紙を各自で「学修ガイド」として使用し、かつ「自己評価票」として指示に従って記録をしてください。大学の教務課教育実習係へ実習記録簿等を提出する際に、記入を済ませた本紙もあわせて忘れず提出してください。なお、係での提出確認作業後、本紙は返却される予定です。

◎本紙の様式の見方について◎

「実習遂行力」「実務調整能力」「生徒・生活指導」「学習・保育・保健指導」の4つの観点から、開始前は10項目、期間中は18項目について教育実習生の学修活動の達成を問う質問文を設定しており、さらに「BEGINNING」から「EXCELLENT」までの4段階の成長進行に見合った「達成確認事項」が設定されている。

	BEGINNING	FAVORABLE	SATISFACTORY	EXCELLENT
1 実習校での言葉遣いや身なり、勤務生活の心得等について準備ができていますか。	清潔な頭髮・服装、使用する物品や関連資料等を整えた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	生活時間や食事・睡眠習慣、実習時の生活環境を整えた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	子どもへの話し方・板書の仕方等を検討して、練習した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	相手・場所・時期に相応しい教師の言動を検討し練習した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前

また、【実習準備期間用】では実習開始の「2週間前」と「2日前」、【教育実習期間用】では実習開始から「2週間後」と「4週間後」に、成長進行に見合う確認事項の各々について◎・○・△・×の尺度で「達成状況を記入できる欄」を用意している。

【実習準備期間用】

下記の内容についての達成度を、教育実習開始の2週間前と2日前の時点でそれぞれ、次の記号で表してみよう。

◎:良好に実施できた ○:とりあえず実施できた △:実施の途上にある ×:実施・検討していない

		BEGINNING		FAVORABLE		SATISFACTORY		EXCELLENT			
実習 遂行力	1	実習校での言葉遣いや身なり、勤務生活の心得等について準備ができていますか。		清潔な頭髮・服装、使用する物品や関連資料等を整えた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		生活時間や食事・睡眠習慣、実習時の生活環境を整えた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		子どもへの話し方・板書の仕方等を検討して、練習した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		相手・場所・時期に相応しい教師の言動を検討し練習した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	2	実習校での勤務や観察・参加・実習に向けて、計画的な準備ができていますか。		事前指導で実習への意欲や自己目標について記録した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		事前出校時に勤務に係わる確認必要事項を尋ね把握した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		事前出校の際、担当学級の学習・生活状況等を把握した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習校の状況を踏まえ資料収集し、自己目標を修正した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
実務 調整能力	3	実習校の校種や立地・規模等に起因する教育課題を理解できていますか。		実習校の規模、校区について資料や実地等で確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習校の規模、校区の特色から、社会的特性を分析した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習校の特性から存在する教育課題について検討する。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		存在する教育課題に対する様々な対応策を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	4	生徒指導や学習指導等に関する自分の理解度や実践上の課題を理解できていますか。		大学までの学び等を振り返り、内容理解度を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習に向けて再度確認が必要な事項をリストし、調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		理解したことを自ら実践で使用できる可能性を吟味した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		自己の実践上の課題を明記して実習での改善を意識した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	5	学校生活や指導等に望ましい環境の構成の仕方について理解できていますか。		講義の教科書や構成例等から環境の在り方を検討した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		登下校・放課・給食・清掃・部活動等の関与方法を検討した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		一般に指導効果がある教材教具や環境整備法等を検討した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		子どもの個性に応じる環境整備の実践例を調べ分析した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
生徒・ 生活指導	6	幼児・児童・生徒の心身の特性や認知・技能の特性について、理解できていますか。		子どもの心身や認知・技能の成長の特性を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		校種特有な心身の成長上の課題と対応策を調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		校種特有な認知・技能の成長上の課題と対応策を調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		集団内の個人差に向き合う指導について実践例を調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	7	幼児・児童・生徒の教師や家族、友達との関わり方の特性を理解できていますか。		子どもの教師や友達との関わり方の特性を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		子どもの家族や地域住民との関わり方の特性を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習で想定される子どもの対人関係性の課題を整理した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		対人関係性や責任遂行に焦点化した指導実践例を調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	8	幼児・児童・生徒の日常での道徳性や生活態度に見られる課題を理解できていますか。		子どもの生活環境と道徳性・生活態度の関係を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		道徳教育についてその目標や内容・方法を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		実習で想定される道徳性・生活態度の課題を整理した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		道徳性・生活態度改善に焦点化した指導実践例を調べた。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
学習・ 保育・ 保健指導	9	校種や教科等・学年に応じた指導の目標やその評価方法を理解できていますか。		学習指導要領や講義の教科書等で目標・内容を確認した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		教師用図書や指導案例で目標の観点・記載内容を分析した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		目標を幼児児童生徒の姿(行為)に反映させて記載した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		目標達成を測る評価方略を検討し規準と基準を設定した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	
	10	教材研究や指導案立案、模擬授業実践などで授業構想が具体化できていますか。		教材例や指導案例等を収集して、授業展開を検討した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		教える事・考えさせる事を意識し、指導内容を整理した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		整理を元に指導案を立案し、教材等必要な準備を行った。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前		指導案に基づき模擬授業を実践し、言動等を修正した。 実習開始 2週間前 実習開始 2日前	

【教育実習期間用】

下記の内容についての達成度を、教育実習の開始から2週間後と4週間後の時点でそれぞれ、次の記号で表してみよう。

◎:良好に実施できた ○:とりあえず実施できた △:実施の途上にある ×:実施・検討していない

		BEGINNING	FAVORABLE	SATISFACTORY	EXCELLENT	
実習 遂行力	1	自己の教職への適性を考えたり、職業能力育成上の課題を意識したりできましたか。	観察・参加を通じ教職に不可欠な心理・能力を分析した。	自己分析・他者指摘で自己の職業能力の現状を把握した。	現状改善を意識して実習に取り組み、成果を判断した。	教職員とも相談して、実習事後での自己課題を整理した。
	2	教師として責任ある言動、守秘義務の徹底、良好な勤務の遂行ができましたか。	大学・実習校の指示・注意事項と理由を理解し勤務できた。	指示・注意事項を満たすため早めに報告・連絡・相談した。	自己の勤務態度が与える学校への影響を検討・整理した。	教職員との会話を通じて良好な勤務のあり方を分析した。
	3	計画的に実習準備・実践を行い、明瞭に説明した実習記録物を作成し提出しましたか。	指定期日内に実習準備・実践や記録物等の提出を行った。	自他に明瞭な表現で丁寧に筆記した記録物を作成した。	相談では丁寧に説明資料等を用意し、意見を反映させた。	期限に余裕を持ち積極的に提案・相談し、意見を受けた。
	4	学校・教職員が保護者との連携・協力体制を構築していることを理解しましたか。	講話等で実習校の保護者向け連携・協力体制を確認した。	教職員の活動から保護者との連携・協力事例を把握した。	教職員から保護者との連携・協力を進める工夫を教わった。	保護者の受け止めを意識した子どもへの対応に努めた。
実務 調整能力	5	教職員が会議・研修で連携・協力体制を構築し学校を運営していると理解しましたか。	講話等で実習校の校内連携・協力体制と背景を確認した。	校内の活動を通じ教職員間の連携・協力事例を把握した。	教職員から同僚と連携・協力を進める工夫を教わった。	報告・連絡・相談に努め、協力して責任ある勤務ができた。
	6	生徒指導や学習指導等に関する学校・学年・学級の方針を理解し、行動できましたか。	講話等で実習校の教育方針・取り組みや理由を確認した。	教職員の活動から教育方針の反映事例と工夫を把握した。	教育方針を意識して教職員の指導実践に参加・協力した。	教育方針を意識した実践を検討し、指導実践を行った。
	7	生徒指導や学習指導等に関する実践や協議を教職員と協力して進められましたか。	指導に対する自己の考えを他者に伝え、意見を受けた。	他者が理解し易いよう工夫・準備し明瞭に考えを伝えた。	他者の立場を理解して、受けた意見の意味を解釈できた。	互いの建設的な議論によって指導実践の改善ができた。
	8	学校生活や指導に関わる環境整備に進んで役割を得て、継続的に活動できましたか。	指導等に関わる環境整備活動を依頼に従って実施した。	教職員が実施する環境整備活動へ自主的に参加した。	参加する環境整備活動の改良案等を提案し、実践した。	許可を得て自主的な環境整備活動を企画し、実践した。
生徒・ 生活指導	9	年間通じて、学校が家庭と連携した継続的指導を行っていることを理解しましたか。	講話等で実習校の家庭と連携した継続的指導を確認した。	教職員の活動から家庭と連携した指導事例を把握した。	教職員から家庭と連携した指導を進める工夫を教わった。	子どもの家庭生活・学習の改善を意識し指導実践した。
	10	観察・参加を通じて子どもの個性や生活習慣・発達の特徴について検討しましたか。	観察より子どもの生活習慣・発達特性や個性を整理した。	子どもと交流を進めて、彼らの見方・考え方を整理した。	教職員から子どもの受け止め方や対応の工夫を教わった。	子どもの成長を意識して子どもへの対応を考え実践した。
	11	観察・参加を通じて子どもの対人関係性や集団活動時の関与度を検討しましたか。	観察より子どもの集団内での関わり方の特徴を整理した。	子どもと交流を進めて、彼らの集団関与意欲を整理した。	教職員から集団把握の仕方や集団指導の工夫を教わった。	集団の成長を意識し子どもへの対応を考え指導実践した。
	12	道徳や学活等の生徒指導において、学級の子どもに応じた指導を展開できましたか。	観察から学級の実態と生徒指導上の中心課題を整理した。	学級の課題に見合う指導事項を選定し、指導を立案した。	子どもが指導を受ける必要感を意識する内容を検討した。	指導実践から効果を分析し、今後の対応を考え整理した。
学習・ 保育・ 保健指導	13	教職員と相談して子どもの個性への対応を考えた指導を検討・実践しましたか。	教職員から学校や学級の子どもの状況を教わり把握した。	相談して自己の立場や指導にあたる心構えを明確にした。	相談して子どもの個性を活かす指導方法を考え実践した。	実践での子どもの個性の発揮具合を教職員と分析した。
	14	指導実践の事前事後協議を通じて、自己の職業能力の改善点を明確にしましたか。	観察より場の構成・対話・板書や説明等の技法を整理した。	参加での実践に基づき自己の職業能力の改善点を掲げた。	実習で改善を意識して立案・準備し、指導実践を行った。	事前事後協議を通じて自己の能力改善と課題を確認した。
	15	指導目標を観点ごとに具体的に観察可能な子どもの言動で書き表し、評価しましたか。	指導の場面・観点に応じた本時の行動目標を明確にした。	目標到達度の評価方法や判断可能な規程・基準を定めた。	指導案に記した指導が展開でき、立案の課題を整理した。	実行可能な目標記載や評価規程・基準の設定法を考えた。
	16	適切な教材教具や指導展開により目標に則した授業を構想し、実践しましたか。	指導で利用する教材教具の検討や調整・準備に尽力した。	思考や活動の時間確保等、配分や展開順序等を熟慮した。	明確な課題提示・指示・注意・質問・説明を行う実践をした。	机間指導や討論等で子どもの学ぶ意欲・思考を刺激した。
	17	子どもの言葉や思考・技能を探り、指導案を調整して授業実践に反映させましたか。	子どもの見方・考え方を基に教材・授業展開を決めた。	子どもの理解・表現を意識して話や場面の構成をした。	子どもの反応を多面的に予測し、対応方法を計画した。	実践中の子どもの反応から適切な指導案修正が行えた。
	18	教職員と相談して、子どもの主体的な学びを支援する方策を企画し実践しましたか。	主体的学びの支援方法について調べて検討し、企画した。	企画を基に教職員と相談し、実践の必要性を確認した。	企画を子どもに応じて修正した上で指導実践に導入した。	導入効果を分析して改善事項を考え、相談し整理した。